

# それゆけ！ としょかんだより



2007年10月

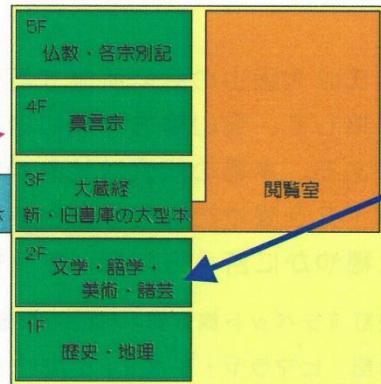
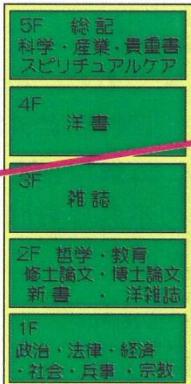
第6号

発行所  
高野山大学図書館  
閲覧室

長かった夏休みも終わり、1年の後半です。さあ、これからどうする！？  
もちろん勉強…頑張っていこう！！

## 祝♪工事完了！

夏休みの長い閉館…。でも、やっと書庫の耐震工事が完了しました！書庫の図書は、こんな感じに変わります♪でも、書庫の中で、危険なところが…。



図書館の長い閉館…。たいへんご迷惑をおかけいたしました！図書を移動したことや、天井が低くなっていることなど、慣れるまでたいへんですが、よろしくお願ひいたします。

## 論文を探そう！～第2回 基礎篇～



卒業論文や修士論文などを作成する際には、自分の決めたテーマに関する先行研究を数多く集める必要があります。前号では、先行研究を集めときに便利な、代表的な論文検索のサイトを3つ、紹介しました。

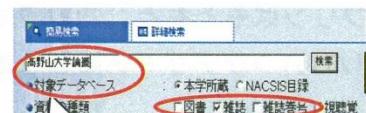
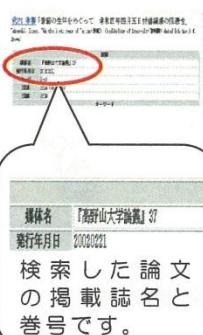
ところで、サイトで検索した論文を実際に読む場合、その論文が掲載されている本や雑誌を探す必要があります！

論文検索サイトで論文を検索したら、その論文の掲載誌を図書館OPACで検索するようにしましょう。論文名をOPACに入力して検索しても、ほとんどヒットしないのでご注意を。

### ①論文検索サイト

### ②図書館OPACの検索画面

### ③OPAC所蔵画面



あらかじめ、検索資料の種類を指定しておくと便利です。  
「所蔵巻号」欄で、読みみたい論文が掲載されている巻号があるかを確認します。

2007年9月の開館予定表						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	1	2	3	4	5	6

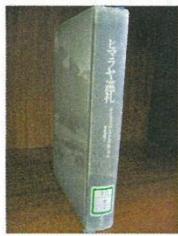
2007年10月の開館予定表						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
30	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

9:00-19:00	13:00-19:00
9:00-17:00	13:00-17:00
9:30-12:00 / 13:10-17:00	閉館

切り取り

## 今月のおすすめ図書！

※今月は奥山直司先生のおすすめ図書です。



デイヴィッド・スネルグローヴ著、吉永定雄訳

『ヒマラヤ巡礼』(白水社、新装復刊2002年)

請求記号：771/ヒ/10

まだまだ暑い日が続くから、と言うわけではないが、ヒマラヤの冷気と靈氣を感じさせる一冊を紹介しよう。本書はイギリスの著名な仏教学者スネルグローヴが今から半世紀前にネパールの山岳地帯で行なった調査旅行の記録である。スネルグローヴは専門的な大著をいくつも出しているが、同時に本書のような一般書、啓蒙書にも絶妙な腕を振るう。

ところで彼は、本書 p.218 で、河口慧海の『チベット旅行記』の記述を批判している。慧海は地方名であるトルボを村の名前と誤認しているというのである。『旅行記』だけを読めば、確かにそのように見える。だが実際には、慧海はトルボを郡名と知っていたことが、近年発見された彼の日記から判明した。もしも慧海がそのことを『旅行記』の中に明記していたならば、スネルグローヴは、トルボをこの地方に最初に同定した栄誉を慧海に譲っていたかもしれない。まことに惜しいことをした。ちなみにこの日記は、奥山直司編『河口慧海日記 ヒマラヤ・チベットの旅』(講談社学術文庫、2007年)として出版されている。

本書の訳者、吉永定雄氏は大阪山の会に所属する登山家である。私は、氏とは数年前から懇意にさせていただいているが、氏に接して、登山家も一流になると、これほど文献を集め、かつ綿密に調べ上げるものかと、感動したことがある。本書の訳文は読みやすく、仏教用語もよく押さえられている。このことについて、専門家にアドバイスを受けたのでは、という私の不躾な質問に対して、氏は、そうすると私の訳ではなくなるのでね、と穏やかに答えられた。今後も末永く活躍してほしいものである。

※河口慧海著、高山龍三校訂『チベット旅行記』(講談社学術文庫、1978年)

請求記号：771/チ/73-1~5

奥山直司編『河口慧海日記 ヒマラヤ・チベットの旅』(講談社学術文庫、2007年)

請求記号：771/カ/14

## 今月の…ぴか！



コンビニなどでよく売られているデザートの“パンナコッタ”と“プリン”。どちらも似たようなお菓子なのに、どこがどう違うの？？・・・ということで、調べてみました。

パンナコッタは、イタリア発祥のお菓子で、“パンナ”は“生クリーム”を、“コッタ”は“加熱した”を意味します。生クリームを加熱して、ゼラチンで固めたものがパンナコッタです。

プリンは、イギリス発祥のお菓子で、ブディングと言われ、蒸し焼き料理の一つです。日本に伝わった時、日本人には“ブディング”が“プリン”に聞こえたことから、この呼び方が定着しました。

でも、イギリス発祥のプリン（ブディング）は、私たちが考えているプリンとは少し違うようです。

## パンナコッタとプリン、どう違うの？

昔、船の料理人が、海の上で食べ物に困り、パン屑や、肉の小片、卵、ナッツ類といったあり合わせの材料に「えい！やってしまえ！」と味付けをしてナブキンで包み、蒸し焼きにしてみました。しばらくすると、形はそのままで、食べ物らしくなっている。チーズなどをふりかけて食べてみると、まあまあ美味しかった。これが、“ブディング”です。

この料理が、一般的家庭にも広まっていきます。パンやライスだけを入れたものから、やがて、具を何も入れないものになり、それだけでは、味がたりないので、カラメルソースをかけてみた。これが、私たちのよく知っているプリン（カラメルプリン）です。

プリンはもともと、お料理だったんですね～。茶碗蒸しもいつかデザートになったりして♪

※参考にした資料は、吉田菊次郎 著『洋菓子はじめて物語』(平凡社、2001年)です。

図書館では所蔵しておりません。興味をお持ちの方は閲覧室カウンターまで、お問い合わせください。



(編集後記) 夏休みが終わりました。これから頑張らないと。でも息抜きも大切！そんな時、気になる図書を読んでみましょう♪(玉)

発行所

〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385 高野山大学図書館 閲覧室  
Tel:0736-56-3835 / Fax:0736-56-5590 / E-mail:service-lib@koyasan-u.ac.jp